

Title	伊豆半島地域におけるホテル・旅館業界の経営戦略
Sub Title	
Author	清田一正(Kiyota, Kazumasa) 小野桂之介
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第833号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0833

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 清田 一正 主査 小野桂之介
(株式会社 駿河銀行) 副査 古川 公成
池尾 恭一
所属 小野桂之介 研究室

伊豆半島地域におけるホテル・旅館業界の経営戦略

本研究は、静岡県伊豆半島地域におけるホテル・旅館業界を取り上げ、市場環境の変化とそれに対応する企業が競争力を向上するための行動原則を考察する。

伊豆半島地域は、自然環境に恵まれ、首都圏に隣接している地の利もあって、古くから観光のメッカとして知られてきた。しかし、近年伊豆の宿泊観光客数は横ばいの状態となっており、かつての首都圏近郊の観光地としての圧倒的地位からみると陰りがみえている。宿泊観光旅行に関する顧客のニーズが変化して、同地域の魅力度が低下していることが主な原因として考えられる。かかる傾向が今後も続かならば、同地域のホテル・旅館業界として、顧客ニーズの変化に対応し、他の観光地に対抗する、新たな経営行動を取ることが必要になる。

本研究では、フレームワークとして小野桂之介・根来龍之の「生産企業の経営」における競争戦略論を用いて伊豆半島地域の観光地およびそこに立地するホテル・旅館業界の競争力を分析し、上記の問題について事例研究を行った。

まず、これまでの観光客の動向、観光地間の地域的競合状態の推移、顧客ニーズの推移等を経時的に分析し、得られた知見から今後の変化を予測する。

次に、上記の分析結果を背景として、伊豆半島地域のホテル・旅館業界が競争力向上のために取るべき競争戦略上の行動を検討する。

研究の結果、伊豆半島地域のホテル・旅館業界は、アダルト、シルバー層といった特定顧客層においては競争上優位にあるが、ヤング、女性層など、旅行需要の広がりにより重要性を増してきた顧客層については競争上不利な立場にあることが分かった。これらの分析結果をもとに、同業界が採るべき経営行動を示し、合わせて個別企業が採るべき企業行動を、経営者とのヒアリング調査結果を交えて提言した。